

座長：住田 安弘 (JCHO四日市羽津医療センター 院長)
西辻 浩 (JCHO理事)

事務職に求められるマネジメント ～課題は何か、解決の道筋は

- KS1-1 松谷 秀樹 (JCHO仙台病院 総務企画課 総務係長)、
- KS1-2 松本 祥敬 (JCHO星ヶ丘医療センター 総務企画課 課長補佐(企画))、
- KS1-3 榎並 竜大 (JCHO諫早総合病院 医事課 入院係長)、
- KS1-4 江畑 直樹 (日本経営グループ 株式会社ミライバ 取締役)

病院経営を取り巻く環境が大きく変化する中、多くのJCHO病院でも、一部の職員が努力すれば経営は何とかなるといふ時代は終焉を迎えつつある。

これからの病院経営においては、働く職員一人ひとりが自院の経営状況を認識し、自部門の課題やその背景を理解した上で、他の職種の職員とも協働しながら共にゴールを目指すという姿勢、すなわち「全員経営」の文化が求められる。

多職種の職員が働く病院という世界の中で、病院内外の様々な情報が集まり、そこから抽出される成果や課題をタイムリーに院内に伝達できるのは事務部門であり、協働作業を進める上で組織の潤滑剤としての働きが期待されるのも事務部門である。

他方、残念ながら、事務部門が院長をはじめとする病院幹部や他の職種の職員の期待に応えるだけのインパクトのある役割を担っている病院は未だ多くない。

昨年、本部では経営企画力を持った事務職員を育成すべく「経営分析研修」を開催し、学会では、研修を修了した中から3名の職員に出席してもらい、主として経営分析の技術的な側面から、事務職員の役割や取り組みについて発表してもらった。

今年度は、研修を「経営エキスパート研修」に改め、昨年度と同内容の「経営分析編」に加え、昨年度の研修修了者を対象としたステップアップ研修である「マネジメント編」を8月に実施した。「マネジメント編」では、多職種を巻き込んで課題解決を目指す際に、立ちはだかる様々な要因をどのようにクリアしていくかのヒントをつかんでもらうことを目指した。

今回、「マネジメント編」を受講した3名から、経営企画の仕事を進める上でうまく進まない要因があるとすればそれは何なのか、どうすれば改善できるのか、新たにどのような取り組みをやろうとしているのか等について報告してもらおう。

併せて、研修を担った(株)日本経営から、受講生の悩みや葛藤を通じて、病院の幹部や他の職員等にどのような関わり方が期待されているのかを説明してもらおう。